

学校法人五島育英会 学校評価制度 2020年度 実施報告書

学校名	東京都市大学二子幼稚園
校（園）長名	細川 秀夫

重点課題名 園児募集の安定		
重点事業目標名 魅力ある園づくりと効果的な広報活動の実施		
具体的施策 (1) 園の教育を効果的に発信する広報活動の展開 (2) 教育活動の充実と発展を図る (3) 社会的な保護者満足度を高める園づくり		
達成目標と具体的取り組み（要約）	達成状況・未達事項・課題	責任担当部署
(1) 園の教育を効果的に発信する広報活動の展開 ① 説明会参加者等目標数値 園説明会参加者 150名 11月1日志願者 110名 ・法人本部との情報共有及び東急グループ等との連携強化 ・保育見学会及び園説明会の工夫・改善 ② 魅力ある幼稚園案内冊子の研究・作成 ・2020年度募集案内の作成 ・HPによる広報活動の研究・推進	達成状況 ・説明会の状況 5月、6月、10月の保育見学会・説明会は新型コロナ感染防止のため中止とした。 8月に30家庭限定の説明会を7回実施した。 計160家庭の参加（前年10月説明会比110%） 11/1 志願者 108名（前年比96%） ・説明会及び入試状況を学事課に遅滞なく報告した。 ・二子東急会隔月定例会（中止） ・都市大子育て支援センター「びっぴ」に8月の説明会ポスターを掲示した。 ・感染防止のため8月の説明会は完全予約制とした。 ・Googleのアンケート機能を使いスマホによるアンケートを実施した。 ・70名の新入園児を予定している。（定員70名） ・新しい募集案内が7月末に完成した。 ・HPに編入試験期日の随時掲載、2019年度学校評価を公開した。 ・グランドデザインを作成し、HPにアップした。	管理職・事務 広報・保健・安全部
	課題 感染防止を徹底した保育見学会の実施	

<p>(2)教育活動の充実と発展を図る</p> <p>①子どもの活動の様子、成長の姿が分かる園行事の実施</p> <p>・伝統的に実施してきた行事の継続実施及び工夫・改善</p> <p>・園児の自発性・意欲を引き出す発表会活動等の実施</p>	<p>主な中止行事</p> <p>①遠足 ②親子であそぶ日 ③夕涼み会 ④お泊り保育 ⑤敬老の日の集い ⑥歩き遠足</p> <p>・本園の三大大行事（運動会・子どもの発表会・子どもの音楽会）は、保護者の参観を学年別、各家庭1名として実施した。</p> <p>・「お泊り保育」の代替行事として、10班編成による課題解決型ゲームを実施した。</p> <p>・「敬老の日の集い」の代替として、保育活動の様子とメッセージを添えた動画を作成し、You tube で配信した。</p> <p>・「お別れ遠足」の代替行事として「園内のお別れ活動」を実施した。</p> <p>・運動会・子どもの発表会等の始めの言葉、終わりの言葉を年長園児が行なった。</p> <p>・発表会の題目や役決め等で、園児同士（年長）の話し合いの場を設けた。</p> <p>・グループ活動での話し合いの場面は感染防止のため極力減らした。</p> <p>課題 リアルタイムでの園行事配信の環境整備（園内無線LAN化）</p>	<p>各学年</p>
<p>(3)社会的な保護者満足度を高める園づくり</p> <p>①保護者ニーズを的確に捉えた預かり保育等の子育て支援の充実</p> <p>・長期休業中の預かり保育の実施増・午前保育の水曜日実施</p> <p>・預かり保育室の整備及び保育内容の検討</p> <p>②都市大グループ、東急グループとの連携強化</p> <p>・都市大グループ校との連携による行事の実施</p> <p>・夢キャンパスでの園児作品展示の実施。</p> <p>・東急スポーツシステムとの連携による課外活動の実施</p>	<p>達成状況</p> <p>・年度末休業を除いた長期休業中の預かり保育（中止）</p> <p>・預かり保育を10月より開始、年間利用者延人数1,076人、17.6人/日（前年度3,108人、28.5人/日）</p> <p>・感染拡大防止のため預かり保育を学年別で実施した。また、園庭活動を取り入れた。</p> <p>・人間科学部学生サポーター制度受入（中止）</p> <p>・都市大教授等による保護者対象講演会、教員研修会（中止）</p> <p>・等々力中高との連携による科学体験教室（中止）</p> <p>・等々力中高ネイティブ教員による英語活動（中止）</p> <p>・教頭、統括主任による人間科学部2年生への講話（中止）</p> <p>・夢キャンパスでの園児作品展示（中止）</p> <p>・年長の水泳教室（アトリオドゥーエ二子玉川）、年中・年少の課外運動教室、年長・年中の総合グラウンド活動（中止）</p> <p>課題 ・コロナ下での体づくり活動の研究</p>	<p>管理職 預かり担当教員 学年</p>

重点課題名 教育の質向上		
重点事業目標名 教育課程の整備・検証		
具体的施策 (1) 教育課程・教育内容の整備と検証 (2) 教育内容の充実と発展を図る (3) 教員研修の充実と教職員の意識の向上を図る		
達成目標と具体的取り組み（要約）	達成状況・未達事項・課題	責任担当部署
(1) 教育課程・教育内容の整備と検証 ①教育課程における園行事の位置付けの明確化 ・各行事の狙い、達成目標、環境設定等の明確化 ・昨年度作成の多文化・調理・造形・音楽活動カリキュラムの実践	達成状況 ・全学年の月別の新教育課程表を作成し、冊子とした。 ・各行事の実施マニュアルを感染防止の観点を入れたものに変更した。 ・調理活動の実施（中止） ・音楽活動の歌唱活動（中止）	教務部 主任会
(2) 教育内容の充実と発展を図る ①課題あそび等の検証 ・週案の振り返り事項からの課題抽出 ②体験活動の一層の充実 ・ライズ菜園、地域の農家における収穫体験の実施 ・週案の振り返り事項からの課題抽出	達成状況 ・保育室内での課題あそびで密集、飛沫を避けるため、座る位置の目印やパーテーションの活用などの工夫を行った。 ・ライズ菜園での種蒔き（中止）、成長観察、収穫体験を年長児で実施した。（6月 サツマイモ・落花生の観察、7月 カボチャ・ジャガイモ・空芯菜収穫、1月 大根収穫） ・10月卒園生保護者の経営する農地でのサツマイモの収穫体験を実施した。（年中・年少） 課題 プランターによる野菜栽培の充実	各学年
(3) 教員研修の充実と教職員の意識の向上を図る ①外部研修会への積極的な参加 ・悉皆研修としての位置付け（都私幼教育研修会、世私幼協会主催の研修会等）による参加 ②園内研修会の定期開催 ・各学期2回の研修会の実施 ③分掌業務の推進 ・分掌業務の年間目標による業務推進 ④ICTによる公的文書作成・管理の推進 ・園業務支援システム（パステル）を活用した指導要録の作成等、園内業務のICT化への推進	達成状況 ・都私幼の研修会、世私幼主催の研究会、宿泊新任研修会はオンラインで参加した。 ・外国人講師によるサイバードリーム教員研修会（中止） ・新教育課程表の作成、保存期間を過ぎた公文書廃棄等の年間目標を達成した。（教務部） ・新幼稚園案内の作成、安全点検の定例化の目標を達成した。（広報・保健・安全部） ・預かり保育の申込から領収書発行まですべて電子化した。年少、年中の指導要録作成の電子化ができた。 ・年長の預かり金の清算が年度内に終了した。 課題 パステルのシステム担当者の育成	管理職 教務部

重点課題名 国際化(国際的に活躍できる人材の育成)		
重点事業目標名 多文化教育の推進		
具体的施策 (1) 多文化に触れる教育の充実 (2) 多文化教育のための教材研究 (3) 附属小ネイティブ教諭との交流の推進		
達成目標と具体的取り組み(要約)	達成状況・未達事項・課題	責任担当部署
(1) 多文化に触れる教育の充実 ①幼児英語教育システム(サイバードリーム)による英語活動の実施 ・朝の会での10分間の英語活動の通年実施(年少・年中・年長) ②外国の文化を学ぶ活動の充実 ・海外経験の園児・保護者の協力を得て行う学年合同保育の実施	達成状況 ・6月以降、朝10分間の英語活動を実施した。英語の歌は実施せず。 ・学年合同保育(中止) 課題 コロナ下での多文化教育の工夫	各学年
(2) 多文化教育のための教材研究 ①幼児英語教育システム(サイバードリーム)の教材研究 ・本システムの効果的な実施方法の研究及び活用を通しての教材改善点の洗い出し ②多文化に触れる教材の充実 ・本園にある多文化教材の整理及び世界の絵本の研究推進	達成状況 ・業者による指導法研修会(中止) ・サイバードリームに関する意見を教員から意見聴取した。 ・多文化教材を整理し、リスト化した。 未達事項 世界の絵本の研究	主任会 総務・管理部 各学年
(3) 附属小ネイティブ教諭との交流 ①都市大グループ学校間連携を活用したネイティブ教諭との交流の実現(目標年3回)	達成状況 ・等々力中高ネイティブ教諭による年長対象の英語活動(中止) 課題 ネイティブ教諭による年中への英語活動の拡充	管理職

重点課題名 食育活動		
重点事業目標名 食育の推進		
具体的施策 (1) 食育の充実を図る (2) 食育に対する保護者への啓発活動		
達成目標と具体的取り組み(要約)	達成状況・未達事項・課題	責任担当部署
(1) 食育の充実を図る ①土づくりから野菜の栽培・収穫・調理と一貫した食育活動の充実 ・園庭のプランターを活用した土づくり、栽培・収穫 ・ライズ菜園を活用した栽培・収穫 ・夏野菜、冬野菜の調理活動の実施	達成状況 ・調理活動(中止) ・夏野菜、冬野菜と季節を区切って以下の野菜を栽培した。 夏野菜: ジャガイモ・空芯菜・カボチャ 冬野菜: 落花生・サツマイモ・大根	主任会 各学年

<p>②食に対する興味・関心を高める活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おやつ作り等の調理活動の実施 ・給食の状況把握と統計化（時間・食べ残し等） ・食事の時間における「食に対する感謝の念」の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食（中止）、10月からの昼食は弁当のみとした。そのため給食状況調査は実施せず。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育活動の再検討 	
<p>(2)食育に対する保護者への啓発活動</p> <p>①園児の健康に留意した食生活の啓発活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園ブログ等を活用した食育活動の発信 ・保護者会等における園長講話 ・給食試食会及びアンケートの実施 	<p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・啓発活動（中止） ・給食試食会、アンケート（中止） ・食育に関する教材（エプロンシアター）や園児用調理器具の充実を図った。 	管理職

<p>重点課題名 在園児保護者の満足度向上</p>		
<p>重点事業目標名 肯定的な感想・意見が得られる行事等の展開</p>		
<p>具体的施策</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 保護者の信頼が高まるような担任の育成 (2) 分かりやすいプリント作りなど保護者連絡の改善 (3) 行事等による保護者意見の次年度への反映 (4) 防災・防犯・園内事故防止等に係る設備、備品等の検証・点検・整備 		
<p>達成目標と具体的取り組み（要約）</p>	<p>達成状況・未達事項・課題</p>	<p>責任担当部署</p>
<p>(1)保護者の信頼が高まるような担任の育成</p> <p>①新採用を含めた若手教員の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修プログラムの立案及び実施 ・保育観察の実施（各学期1回） ・週案を活用した教育指導・助言 	<p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修年間プログラムに基づき、保育観察、園長・教頭・統括主任による研修指導を実施した。 ・感染防止の確認を含めた随時の保育観察を行った。 ・教頭・統括主任が週案を基にした指導・助言を行った。 <p>課題</p> <p>新任研修を除いた教員研修の体系化</p>	管理職
<p>(2)分かりやすいプリント作りなど保護者連絡の改善</p> <p>①適切で分かりやすい保護者宛のプリント作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的で簡潔・明瞭、かつ心を繋ぐプリントの作成 <p>②ICTを活用した連絡システムの研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メール等による欠席連絡や預かり保育申込システム等の研究推進 	<p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起案による校正の徹底を通して明瞭な文書を配付できた。園だよりを通して保護者との保育・育児の共有化ができた。 ・園だよりの園長メッセージ3年間分を冊子にし、年長保護者に配付した。 ・園業務支援システム（パステル）を4月から本格稼働した。出欠席連絡、検温、アンケート、預かり保育申込、文書配付をパステルで行った。 ・4、5月の新型コロナウイルスによる休園期間を含め、家庭との連絡ツールとしてパステルの有効活用ができた。 	管理職

	<p>・動画配信アプリ「てのりの」を導入し、2月の緊急事態宣言下はこのアプリを活用して日常の保育の様子を配信した。</p> <p>課題 職員の ICT スキルの向上</p>	
<p>(3)行事等による保護者意見の次年度への反映</p> <p>①保護者意見の反映及びそれに対する説明責任</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の改善可能な意見を踏まえた行事の実施 ・保護者会等における保護者意見の報告及び園としての基本的な考えの説明 <p>②満足度調査の実施（目標数値：総合満足度で満足が90%以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園業務支援システム（パステル）を活用した卒園児保護者の満足度調査の実施。（2019年度と2020年度との集計比較） 	<p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者会等において保護者の意見を報告するとともに園としての基本的な考えを説明した。 ・年長保護者対象の満足度調査を実施した。総合満足度の「満足」が98%であった（2019年度91%）。コロナ禍のため単純比較は難しいが、感染対策を含めて、高評価であった。 <p>課題 満足度の低い項目の改善</p>	<p>管理職 主任会</p>
<p>(4)防災・防犯・園内事故防止等に係る設備、備品等の検証・点検・整備</p> <p>①熱中症対策強化のための施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スプリンクラー設置 ・日差し防止のオーニングの増設 ・園庭西側の一部人工芝化 <p>②園内外の怪我等の防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怪我の月別統計を活用した怪我等の防止 ・遊具等、園内の安全点検記録の定期実施 ・安全マニュアル等の定期確認と想定訓練の実施 <p>③食物アレルギー事故防止の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象園児一覧表の作成及びそれに基づく確実な食物摂取指導 	<p>達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園庭にスプリンクラー設置、オーニングの増設、園庭西側の人工芝化を行った。 ・年間の怪我件数等の統計化を行った。年間の怪我の総件数推移は、2020年度37件（6月～3月）2019年度50件2018年度107件どの年度も週の後半の金曜日に怪我が多くなっている。教育日数を考えても昨年度より減少した。 ・園庭遊具及び安全指導チェック票による月1回の安全点検を実施した。 ・避難訓練の毎月実施（火災・地震・水害）、2月には不審者侵入想定訓練を行った。 ・アレルギーのある園児の対象食品一覧表を作成し、全職員が把握するようにした。 ・4月に食物アレルギーのある新入園児の対応について、個別に保護者・担任・園長で方針等を確認した。 <p>課題 ・園児を守る安全対策のさらなる充実</p>	<p>管理職・事務 広報・保健・安全 全部</p>

校（園）長による総括

総括は以下の通りである。

第1期事業計画の最終年度であり、期間内重点課題の達成が求められていたが、今年度はそれ以上に新型コロナウイルスから園児を守ること、かつその中で可能な限り平常の教育・保育活動に近づけることを最大の目標として取り組んだ。全職員が感染への危機感と教育の重要性を十分に認識して、感染防止の徹底、教育活動の維持に努めたことは高く評価できる。

1 実施した主な感染防止対策

①登園前の体温のスマホ入力 ②登園時のサーモカメラによる体温測定及び園長による園児の掌へのアルコールスプレー ③ペーパータオルの整備（トイレ・手洗い場） ④園児全員マスク着用 ⑤各保育室に加湿・空気洗浄機（プラズマクラスター）、換気用サーキュレーター、昼食用パーテーションの整備 ⑥園児降園後の各部屋・遊戯室等の消毒の徹底（机・椅子・おもちゃ等・床・ドア・手摺・園庭遊具・トイレ等）、各保育室は次亜塩素酸水噴霧による消毒、遊戯室はジアイノを稼働 ⑦行事等（運動会、誕生会、発表会、保護者会、園庭あそび、預かり保育等）はクラス、学年ごとに実施 ⑧保育室内の保護者立入禁止 ⑨時差登降園及び園庭での降園（年中長）

2 教育活動の維持

三大大行事（運動会・発表会・音楽会）は学年別実施、保護者参観も学年別実施。園内・外活動はすべてマスク着用で実施（夏期の園庭あそび除く）。

3 保護者の満足度

昨年に引き続き卒園児保護者対象に満足度調査を行なった。総合的な満足度は、満足が98%、やや満足が2%と非常に高い数値であった。コロナ禍で計画した教育活動を十分提供できなかったが、保護者の期待に応え一定の評価を得たと判断している。

4 新型コロナウイルス感染防止以外の安全対策

熱中症対策としてオーニング（日差しよけ）の増設、スプリンクラーの設置、西側人工芝の敷設を行った。また、アスレチックの周りに落下衝撃吸収マットの増設を行った。安全指導・対策にはこれからも様々な視点からの弛まぬ検討・取組みが必要である。

5 教育活動

子どもの成長がはっきりわかる行事として「運動会、子どもの発表会、子どもの音楽会」を三大大行事として位置付けている。今年度は学年別の参観、保護者の参観1名等の制限の中での実施だったが、保護者の感想の殆どが開催したことへの感謝であった。

6 預かり保育

今年度は10月から開始した。預かり終了後の消毒作業のため預かり終了を30分早め、16時30分とした。延べ利用人数は、1,076人と前年比35%であった。万が一陽性者が出た場合の感染拡大を防ぐために学年別の預かり保育とした。教員が常時3名必要となり、負担が大きくなった。

7 分掌業務

教頭・事務の連携により、長年の懸案だった卒園児預かり金の年度内の報告・返金ができる。また、教務部、広報・保健・安全部、総務・管理部の分掌業務が定着した。

8 グループの連携

都市大グループ、東急グループであるメリットをコロナ禍のため十分活用することはできなかった。

9 国際化

英語機器サイバードリームは英語の歌以外の活動を行った。園児は毎日10分間の英語活動を楽しみにしている。

10 募集活動

2020年度末の在籍数は年長70、年中69、年少70名と定員に近い在籍数を確保できた。次年度の課題として、安定的な園児確保がある。2021年度園児募集では70名が入園予定である（定員70名）。1月14日現在、区内幼稚園53園（認定こども園を除く）の内、募集なしは本園を入れて16園となっている。コロナ感染拡大もあり、各幼稚園の定員充足は厳しい状況にある。世田谷区59園の全体入園手続者数は昨年より264人減少の2,625人で、2年連続の大幅な減である。この傾向は今後も続く予想され、募集活動の厳しさは一層増すと考える。定員確保に向けてホームページ等の充実を図り、本園の魅力を分かり易く発信し続けることが大切である。

学校関係者評価

学校評議員A

- ・コロナ感染を完全にシャットアウトするという強い信念で練られたメソッドで実施された園行事、日々の教育・保育活動、本当に身に染みて痛い程でした。「一番安全な場所は二子幼稚園、ここです」との言葉に感謝と喝采を惜しみません。また、「園だより総集編」は園の父母に限らず誰が見ても涙するものでした。

学校評議員B

- ・コロナ禍の中、教職員が日々全精力を注ぎ、教育・保育活動に携わっている。二子幼稚園の教育環境で育てられたことが将来の人生の大きな宝になって行くことを期待する。

学校評議員C

〈全体的な意見感想〉

3月19日に70名の卒園、23日に修了式を終え、無事今年度が終えようとしていると報告があった。この一年、3月から休校(休園)要請、4月からは休園措置となり、異例の状況であった。このような中で、リモートや配信、パステル(総合園内業務システム)を活用し、園だよりの発行などをして、園児・家庭とのコミュニケーションを実施するなど、いつもどおりの保育内容に近づける努力と工夫が見られた。行事に関しても多くが中止になったが、運動会や子どもの発表会、子どもの音楽会は、制約がありながらも通常どおりのものが行えたようだ。これは、保護者らの理解・協力もあって実施できたのであって、改めて幼児教育の特徴の一つ、園と家庭との連携のあらわれであろう。保育内容の変更や状況は適宜配信するようにしており、こうした目に見える園の姿勢は、保護者からも、満足度の高い評価となっているようだ。様々な経験は、今後の保育に多いに役立つものであり、この一年の貴園の取り組みを評価したい。

〈実施報告書について〉

通常の保育も変更を余儀なくされ、密な行事は中止となり、異常な一年であった。その中でも教育課程表が改定され、各学年に感染症防止の対策を入れたものが出来た。こうした新しい生活様式にそった取り組みを今後もしていただきたい。また、グランドデザインを昨秋公開した。幼児教育は様々な面をもつわかりにくい分野であるが、この一覧は、体系的に見ることができ、わかりやすいものになると思う。ICT関連では、預かり保育の申込みや精算などもソフト上で出来るようにし、また、Wi-Fi環境の整備をすすめ、ネット経由で教員が書類作成や、各保育室で参観出来るようになるなど、インフラ整備の予定との説明があった。このような状況下になり、やむを得ず…の面もあるが、チャンスととらえ積極的に行っていただきたい。

〈特に評価する項目〉

今年度、園案内(パンフレット)を一新した。ここ数年の課題であったが、園長先生をはじめ、教員方の積極的な取り組みがあり実現した。近年、いわゆるライバル園では園児募集の一環となるようにパンフを一新している。新パンフの大きな写真、わかりやすい図式などは旧来のものにもある同じ文面がより生きているように思う。入園希望者にも受け入れやすいのではないだろうか。今後はホームページの改良がある。ある園では、今後は紙のパンフは作成せず、web上での情報、コンテンツで園広報をする、と聞いた。貴園も研究をしていただきたい。

また、実施報告書とは直接は関係ないが、父母の会の取り組み・運営は素晴らしいものがある。音楽会や講演会、合唱団や図書室の運営など自主的な取り組みとはいえ、その内容は質が高く、感心する。また「わかたけだより」は、その編集や内容が素晴らしく、読んでみよう、見てみようという気持ちになる。このように、保護者の意識が高いことが貴園の強みでもある。

〈さいごに〉

この状況下で、教職員は不便をしいられているだろう。外出抑制・行動規制などは、教育に対しての見識を深め、広げる機会を失っているからである。今後は、そのハードルを少しでも下げるべき、五島育英会様 都市大学グループのスケールメリットを生かした取り組みが出来るはずだ。例えば法人様からの支援で、教職員全員のPCR検査実施や工学部系の最新研究のフィードバックである。例えば貴大学の研究結果では当初から換気の重要性を指摘している。<https://www.u-presscenter.jp/article/post-43683.html>

ダイレクトに共有できるシステム作りも課題であろう。今後とも貴園の取り組みに期待します。